住宅産業新聞
Housing Industry News
発行所　住宅産業新聞社
発行人　阿部　雅敏
〒160-0022 東京都新宿区新宿6-28-8 ラ・ベルティ新宿1101
TEL　(03)6233-9611
広告　jutaku@housenews.jp
https://www.housenews.jp
ⓒ住宅産業新聞社 2026

≪ユーザー版≫
無　料

相互の支え合いが最大のメリット

多世帯住宅特集

親子同居ならではの〝安心感〟を



長引く円安や地政学的なトラブルなどにより、ものの値段が上昇している。何かと生活するのが大変な世の中になったと感じられている方も多いのではないだろうか。経済だけでなく、近年、頻発する地震や大規模水害・台風などの災害にも、備えなければならない。ただ生活するにも問題が山積みの中、住宅の取得をお考えの方には、『多世帯同居の住まい』の検討をお勧めしたい。

代表的なのは親世帯と子世帯が暮らす「二世帯住宅」。二世帯同居だけでなく、孫世帯も暮らす三世帯同居など、複数の世帯が暮らすことで笑顔の数も増える――多世帯が同居して暮らしやすさ、子育てのしやすさを実現できたら理想的だ。災害時の安否確認も同居なら離れて暮らすより容易な上、共通のストックヤードなどを設ければ、万が一の時の安心感も違う。

一般的になった夫婦共働き。子世帯が、比較的自由に時間を使うことができる親世帯と暮らすことで、子育てを親世帯がサポートする。逆に子世帯は送迎など親世帯だけで解決することが難しい日常の困りごとをヘルプする、といった互いの支え合いができるのが複数の世帯で暮らす最大のメリット。

基本となるのは、自分たちの家の何を「共有するスペース」にして、何をそれぞれの世帯で「独自に保有するスペース」にするかということ。近年の親子関係は、以前と比べてフレンドリーライクになった、といわれる。とはいえ、生活時間帯が大きく異なるケースも多く、自分たち世帯が自由にできる時間とスペースは重要だ。自分たちの日々の暮らし方を、平日や休日、年間を通じてじっくり考えてみよう。

そして、それぞれの世帯が快適と感じることのポイントをまとめ実際にどのような住まいにしたいのか、ハウスメーカーに相談するのが得策だ。ハウスメーカーは快適な多世帯住宅の実現に向け、日々、研究開発に力を入れている。暮らし方から求められる設備や、空間の使い方など具体的に提案してくれる。この機会にハウスメーカーにじっくり住まいづくりの話を聞いてみてはいかがだろうか。

編集部からのお願い

この新聞は、マイホーム購入や賃貸経営等をお考えのユーザーの皆様向けに**無料で配布しているフリーペーパー**です。
貴社・貴所にご来店される**お客様にご自由にお取りいただける場所に置いていただければ幸い**です。
また、お届けする部数を増やすなどのご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いします。

問い合わせ先　住宅産業新聞社
TEL：03-6233-9611
jutaku@housenews.jp

SEKISUI HOUSE

積水ハウスは、
「長く住み続けたい家」へ

これからの時代、
本当に必要なものってなんだろう。

そんな想いから、安全や環境に配慮した
「長く住める家」を提案してきた積水ハウスでは、
新たなデザイン思想「life knit design（ライフ ニット デザイン）」に
基づく家づくりを進めています。

何が好きか、何に惹かれるか、何を心地よいと感じるか。
そんな一人ひとりの〝感性〟を住まいへと編み込み、
暮らすほどに愛着が増していく「長く住み続けたい家」。

季節の移ろいを感じながら暮らせる住まいは、
人生に豊かさを与えてくれる
感性の器のような場所にもなりうる。
そう信じる私たちは、この新しい家づくりを通して、
グローバルビジョン〝「わが家」を世界一幸せな場所にする〟を
実現していきます。



life knit design

https://www.
sekisuihouse.co.jp/
kodate/lkd

親と同居世帯・別居世帯の二世帯住宅に関する調査

ＬＩＸＩＬ住宅研究所は、親と同居世帯と別居世帯を対象に二世帯住宅について調査を実施、「親と同居世帯・親と別居世帯の二世帯住宅に関する調査報告書」として結果を公表している。有効回答は20代～40代の既婚男女で、親と同居している１９７人、親と別居している２０３人の計４００人から得ている。

調査内容をみてみると、現在、親と「別居」している人の「今後の意向」では、親とは別居したままが34・０％、親とは近くに住む近居14・３％、将来的に親と同居11・８％、実親、義親の介護が必要になった場合のみ、同居を検討が４・９％となっている。

親と「同居」している人の「同居の満足度」は、とても満足している28・４％、まあまあ満足している51・８％で満足している人の割合が８割以上と高い。同居の魅力については　家事・子育てのサポート39・６％、経済的な負担軽減35・５％、緊急時の安心感35・０％となっている。

一方、親と「別居」している人の「同居の魅力」は、緊急時の安心感31・０％、親と気軽に交流できる28・１％、親孝行ができる28・１％となった。

全ての人に今後二世帯住宅を建てるとした場合の理想的なタイプを質問したところ、完全分離型が56・８％、完全同居型が41・８％、一部共有型が１・５％となった。一昔前は完全分離型か一部共有型が多かった印象だが、完全同居型が予想以上に多くなっている。

二世帯住宅への不安や懸念としては、「同居」している人では、生活リズムなどの違い23・４％、知人を家に呼びづらい21・８％が上位となった。「別居」している人でも、トップは生活リズムなどの違い39・４％となり、続いて生活音や生活時間帯の違い20・７％となり、生活リズムの違いの解消が「同居」のカギとなると感じていることがうかがえる。

同調査の調査エリアは全国で、調査方法はＷＥＢを利用した。調査は２０２６年２月16日～22日に行ったもので調査対象は20代～40代の既婚男女で、男女比は男性２００人、女性２００人の１対１となっている。年齢構成比は20代５・５％（22人）、30代32・５％（１３０人）、40代62・０％（２４８人）だった。

親と同居世帯・親と別居世帯の二世帯住宅に関する調査

現在、親と同居している人 N＝197 人、現在、親と別居している人 N＝203 人

Q1. 子の立場で、あなたご自身の親子関係は？　※義親は含まない

とても仲がいい	35.8%
まあまあ仲がいい	40.3%
どちらとも言えない	15.8%
用事があるときだけ連絡を取る	7.0%
疎遠である	1.3%

Q2. 現在、親 (実親または義親) と別居している方の今後の意向

実親、義親とは別居したまま	34.0%
親（実親、義親）とは近く（徒歩圏内など）に住む近居が良い	14.3%
将来的に、親（実親、義親）と同居したい	11.8%
実親、義親の介護が必要になった場合のみ、同居を検討	4.9%
特に考えていない（実親・義親ともに他界を含む）	35.0%

Q3. 二世帯同居の満足度は？ N=197 人

とても満足している	28.4%
まあまあ満足している	51.8%
やや不満である	13.7%
とても不満である	6.1%

Q4. 親との同居を魅力的だと感じる理由（上位 5 つ、複数回答） N=197 人

家事・子育てのサポートを日常的に受けられる	39.6%
経済的な負担を軽減できる（建築費、資金援助、生活費など）	35.5%
緊急時にすぐに助け合える安心感がある（災害、病気など）	35.0%
親世代の老後の生活や介護をサポートできる	31.0%
親と気軽に交流できる	31.0%

Q5. 親との同居で魅力的だと感じる理由（上位 5 つ、複数回答） N=203 人

緊急時にすぐに助け合える安心感がある（災害、病気など）	31.0%
親と気軽に交流できる	28.1%
親孝行ができる	28.1%
家事・子育てのサポートを日常的に受けられる	26.6%
親と過ごす時間を持つことができる	24.6%

Q6. もし二世帯住宅を建てる場合、理想的な間取りのタイプは？

完全同居型	41.8%
完全分離型	56.8%
一部共有型	1.5%

Q7. 二世帯住宅について、不安・懸念を感じることは（上位 5 つ、複数回答） N=197 人

生活リズム・生活スタイルの違いによるストレス	23.4%
友人・知人を家に呼びづらくなること	21.8%
子育てや教育方針に対する干渉	18.8%
共有スペースの使い方や管理で揉めること（リビング、庭など）	18.8%
各世帯の生活音や生活時間帯が気になる	18.8%

Q8. 二世帯住宅に住むとしたら、不安・懸念を感じることは（上位 5 つ、複数回答） N=203

生活リズム・生活スタイルの違いによるストレス	39.4%
各世帯の生活音や生活時間帯が気になる	20.7%
どちらかの世帯が病気や介護になった場合の精神的・肉体的負担	20.2%
将来的な相続や、家の売却時の問題	19.7%
親の介護が子世帯に集中すること	19.2%

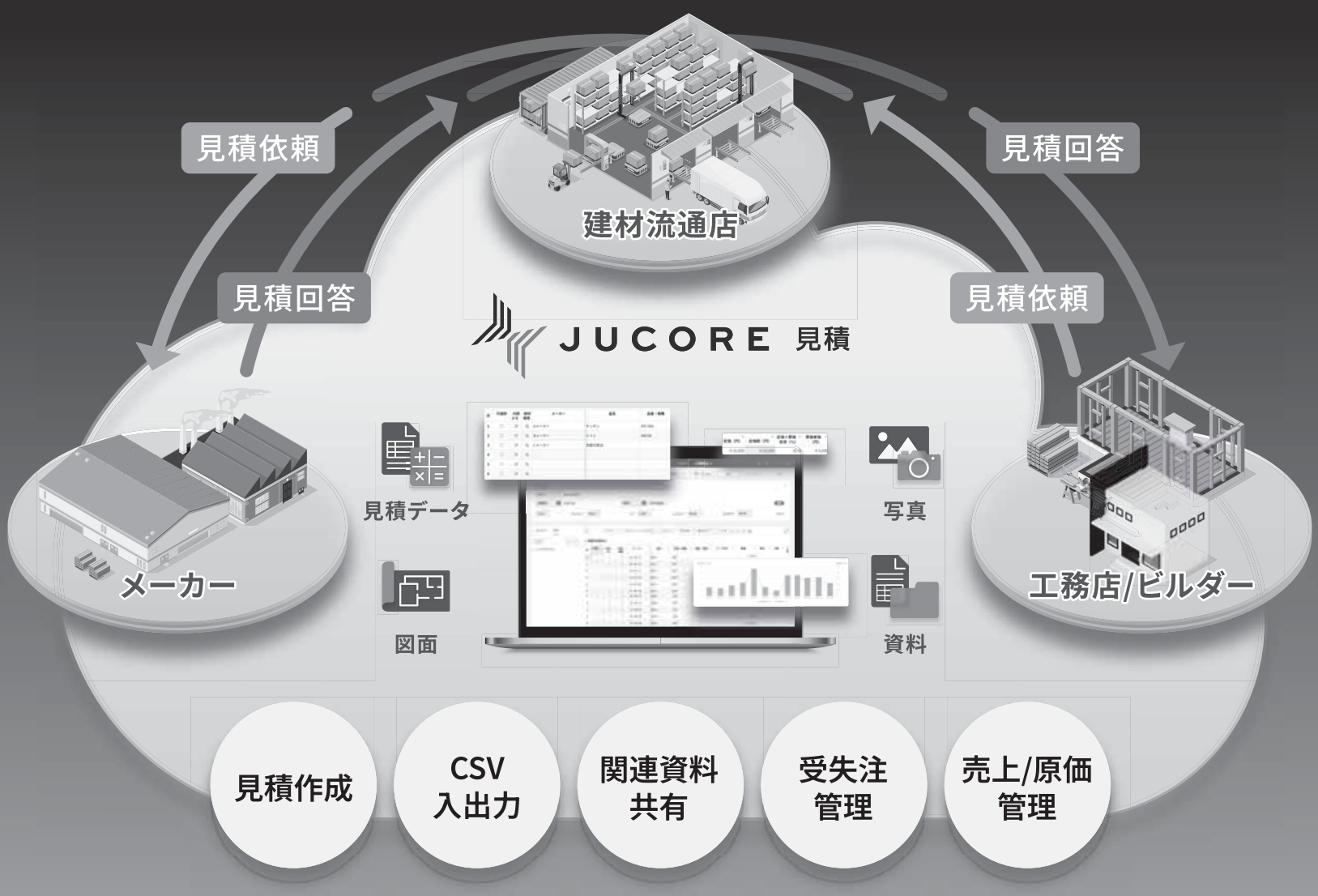
メーカー・建材流通店・工務店/ビルダーをつなぐ

JUCORE 見積

見積依頼も　回答も　進捗確認も

取引先との見積業務を一元管理

建築業界特化のクラウド見積ソフト「JUCORE 見積」が大型アップデート。
新たに取引先連携機能を搭載し、見積依頼・回答・関連資料・進捗状況の共有までを
クラウド上でまとめて管理できるようになりました。



見積作成　CSV入出力　関連資料共有　受失注管理　売上/原価管理



12/31(木)までのお申込みで
取引先連携機能 1年間無料
キャンペーン実施中

90日間の無料トライアルも実施中! 新しくなったJUCORE 見積をお試しください!

お問い合わせ
お申込みはこちらから

木と生きる幸福
住友林業

住友林業株式会社 木材建材事業本部
dx_m.customer@sfc.co.jp

JUCORE 見積

住宅取得等資金の〝贈与税〟非課税措置延長か

親世帯、子世帯との同居。子世帯にとってみれば、自分たちの子ども、つまり孫の面倒を見てもらえるし、親世帯にとってみると、ちょっとした困りごとが起きた際や、将来的には見守りなど、頼れることもある。お互いに信頼できる存在だから、理想的な住まい方の一つといえるだろう。

２つの住宅を建築するよりもずっと費用は抑えられる―とはいっても、実際のところ、玄関やキッチン、バス・トイレを別にするなど、一つの住宅としてはコストが増すことは確か。何かいい手立てはないものか。

実は、ある。それは、両親や祖父母からの住宅等取得のための贈与税非課税枠の拡大措置だ。通常の贈与では非課税枠は年間１１０万円だが、自己居住用の住宅を取得する場合は、省エネ、耐震、高齢者等配慮の等級が一定以上の「質の高い住宅」では上限が１千万円、それ以外の「一般住宅」でも５００万円となるのでお勧めだ。

対象となるのは、新築の注文住宅・分譲住宅または増改築など。いずれも土地の取得費も含まれる。

住宅取得等資金に係る贈与税の非課税措置

直系尊属から住宅取得等資金の贈与を受けた場合に、
一般住宅の場合 500 万円まで、質の高い住宅の場合 1,000 万円まで贈与税を非課税とする

質の高い住宅の基準は

①～③のいずれかに該当すること

新築住宅	①断熱等性能等級５以上かつ一次エネルギー消費量等級６以上 ②耐震等級２以上又は免震建築物 ③高齢者等配慮対策等級３以上
既存住宅 増改築	①断熱等性能等級４又は一次エネルギー消費量等級４以上 ②耐震等級２以上又は免震建築物 ③高齢者等配慮対策等級３以上

税制改正の流れ（概略）

2026 年 8 月　税制改正要望 ▶ 2026 年 12 月（予定）与党税制改正大綱決定 ▶ 2026 年 12 月（予定）2027 年度税制改正大綱閣議決定 ▶ 2027 年 3 月（予定）2027 年度税制改正法案審議・成立・公布



いつの時代でも住宅の取得は、一世一代の大仕事だ。ただ資材価格の上昇や金利上昇をニュースなどで目にしたり耳にしたりする方も多いと思うが、昨今の住宅取得環境は一層厳しさを増している。そのため国は高齢者から現役世代への資産の早期移転によって、住宅取得の負担を軽減し、住宅需要を刺激・創出するとともに、良質な住宅ストックの形成を図る目的でこの措置をとっているのだ。

本来であれば12月末までの措置であるが、８月に国土交通省が「２０２７年度（令和９年度）税制改正要望」で、その2年延長を要望した。正式決定は12月の与党税制大綱を経て、来年3月になるが、住宅取得をお考えの皆さんにとっては朗報であろう。延長が認められた場合の詳細も不明ではあるが、これまでの「質の高い住宅」の基準について〈**表**〉に示すので確認して欲しい。

他にも国は、住宅ローン控除や、補助金など多くの住宅取得支援策を打ち出している。詳細についてはハウスメーカーの担当者が教えてくれるはずだ。まずは相談してみることをお勧めしたい。

HEBEL HAUS

ALL for LONGLIFE

自分らしい生き方に、
住まいを合わせていく時代へ。

価値観やライフスタイルが多様化するいま、

1 つの住まいを家族代々住み続ける人もいれば、

マンションから賃貸住宅へ、

戸建住宅からマンションへ、

ライフステージや目的に応じて住み替える人も

いらっしゃいます。

住まいに縛られることなく自分らしい生き方に、

住まいを合わせていく。

そんな自由で豊かな暮らしを実現するために、

わたしたちは、家族のこと、

資産のこと、社会のこと

あらゆることを考え抜き、最適な答を

ご提案いたします。

各種資料のご請求・お問い合わせ先
下記電話番号またはメールアドレス宛にお問い合わせください。
TEL:**03-6899-3010**（土日祝除く9:00～18:00）
FAX:**03-6899-3400**
j-koho@om.asahi-kasei.co.jp

〒101-8101東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング7階
旭化成ホームズ株式会社 広報室

※当社個人情報お取り扱いに関しては下記サイトを
ご覧ください。
https://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/privacy.html/?link_id=AH_footer28

住宅が欲しい

ロングライフ思想を掲げて半世紀。
良質で長持ちする注文住宅や既存住宅をご提供いたします。



注文住宅

ヘーベルハウス

都市型住宅の先駆者。理想のマイホームを
フルオーダーメイドで建てることができます。



既存住宅

ストックヘーベルハウス

暮らしの安心と快適を実現する
もうひとつの住まいの選択肢です。

部屋を借りたい

高い居住性能と充実した設備を兼ね備えた賃貸物件をご提供。
暮らしにぴったりなお部屋がきっと見つかります。



お部屋探し

ヘーベルメゾン

様々なライフスタイルにあわせた物件を
取り揃えています。



お部屋探し（シニア向け）

ヘーベルVillage（ヴィレッジ）

介護施設ではなく、自立して暮らせる
シニア向けの賃貸住宅をお探し頂けます。

土地を活用したい

相続税対策や資産形成など、目的にあわせて
最適な土地活用プランをご提案させて頂きます。



賃貸住宅

ヘーベルメゾン

高い防災力をもつ安全安心な
賃貸住宅経営。
狭小の住宅地から大規模な
敷地まで対応可能です。



賃貸住宅（シニア向け）

ヘーベルVillage（ヴィレッジ）

超高齢社会のニーズを捉えた
賃貸住宅経営。
土地活用をとおして社会に
貢献できます。



中高層ビルディング

ヘーベルビルズ

最大8階建ての中高層
ビルディングの賃貸経営。
賃貸マンション・店舗・
オフィスなどへ展開可能です。

お互いを尊重する多世帯住宅

三井ホーム「MOCX WALL工法」

構造強度が開放感を提供 初採用の展示場もオープン



三井ホームは今年4月、木造住宅の新スタンダードとなるべく開発した新技術「MOCX WALL（モクスウォール）工法」を初めて採用したモデルハウス「駒沢公園第3モデルハウス」（東京都世田谷区、駒沢公園ハウジングギャラリー内）をオープンさせた。MOCX WALL工法はもともと、大規模木造マンション「MOCXION（モクシオン）」のために開発した壁倍率30倍相当の高強度耐力壁技術（特許取得技術）。これを戸建住宅向けに最適化した同社独自の住宅用ツーバイフォー工法だ。

最大の特徴は、最高水準の耐震強度を維持しながら構造上の特性となっていた「下がり壁」や「耐力壁」を大幅に削減。都市部の限られた敷地でも光と風を最大限に取り込む「高さ3㍍の大開口」を実現し、居住者に物理的・心理的な開放感を提供する。

同モデルハウスは、同社のサステナビリティブランド「&EARTH with WOOD」が掲げる「人と地球に優しい木とともに、高品質な木造建築の提供を続ける」という理念に基づき開発された家。次世代の住環境を提案する拠点と位置付けている。

主な特徴は、MOCX WALL工法の構造革新が可視化されており、木が持つ本来の質感を生かした空間設計と、同工法による2方向持ち出しバルコニーなどを採用し屋外とのつながりを重視した動線計画を構築していること。4㍍超のハイシーリングと合計6㍍のコーナー開口による開放的なLDK・浴室や寝室を1階にまとめ、将来的な1フロア生活も想定した設計など、建築技術を居住者の健康維持に資する要素として捉え、持続的な幸福感（ウェルビーイング）をもたらす住環境の在り方を具現化している。

昨今、サステナブルな社会づくりや居住者の健康志向、そして派手さではなく本質的な豊かさを求める「クワイエット・ラグジュアリー」の価値観が注目を集めている。同モデルハウスはこれらに応える1つの提案だ。

ミサワホーム「MARGE」

空間演出と意匠にこだわり 理想の生活スタイル実現



ミサワホームはシンプル・イズ・ベストの思想のもと、これまで培ってきたノウハウや設計思想をベースとして、デザインテーマごとにあらかじめ外観デザインの基本となる「作法のコード」、質感や色合いなどを決める「素材のコード」、ディテールにこだわる「造りのコード」の3要素から構成する「MISAWA DESIGNERS' CORD」としてパッケージ化。その最新版としてラインアップされた商品が「MISAWA DESIGNERS' CODE MARGE（マージ）」。マージのプロダクトコンセプトは次の通り。

「空間デザイン」＝プランの最大特徴は、北側に大きく開いた窓と、外交パネルで囲まれた「ノースガーデン（北庭）」。北向きの大開口は直射日光を避け、暑さ・眩しさを防ぐため、カーテンを開けたまま1日を快適に過ごすことができる。外構パネルが周囲からの視線を遮り、開放的に過ごせるプライベートな外部空間を実現。夏でも日陰で涼しく、子どもの遊び場としても最適だ。

「生活デザイン」＝1階は大きなワンルーム「パラレルレスLDK」。大開口に面して吹抜けを設け、ノースガーデンともフラットにつながり、垂直・水平方向に広がりを感じさせる空間としている。リビング・ダイニングには方向性を持たせず家具を自由にレイアウト、住まい手が自分好みの居場所をつくることができる。キッチンやランドリーは複数人でもスムーズに作業しやすいように広さを確保、生活動線の効率化と空間の広がりを追求している。

「意匠デザイン」＝リビング・ダイニングは開口を南北のみに絞り、東西面は壁を広く残すように設計。建具や枠材は新色「Haku（白）」を採用し、境界のない白い壁面を演出する。外観も全面のボリュームを地面から浮かすように作ったオーバーハングで、建物に軽さを加え、屋根の縁を数ミリまで薄くすることで建物の輪郭をなくし、壁面をよりシンプルに美しく見せている。

三井ホーム
MITSUI HOME



& EARTH *with* WOOD

木造建築実績を、WEBで公開中。 三井ホーム　木造建築

さあ、街から未来をかえよう
三井不動産グループ
MITSUI FUDOSAN GROUP

お互いを尊重する多世帯住宅

積水ハウス「ファミリースイート」

吹き抜けと大開口が生み出す立体的リビング



積水ハウスの「ファミリースイート」はその名の通り、家族のつながりをはぐくむ家として、これまで累計約3万4000棟を提供してきた大人気シリーズ。今回、新たな提案として、従来の縦・横に広がる大空間に最大幅約6㍍の吹抜けと大開口を採用することで、上下階に広がる立体的なリビングを創出した。

同社の総合住宅研究所の調査によると「家族のコミュニケーションのしやすさ」において、吹抜けのない一般的な間取りの家と比べて吹抜けのある「ファミリースイート」では、「非常に満足」のスコアが約20ポイント高いことが分かった。この傾向は、大規模邸宅だけでなく延床面積110～130平方㍍台の2階建てでも確認されている。吹抜けによって上下階が緩やかにつながることで、家全体に自分の時間を楽しむこともでき、家族のつながりと一人のくつろぎを心地よく両立することができる。

この吹抜けとつながるリビング空間は、これまでの「ファミリースイート」でも定評のある同社独自の高強度梁「ダイナミックビーム」をはじめとした構造設計により、高い構造性能を維持しながら、柱や仕切りのない圧倒的な大空間を可能としている。また、最大5㍍幅の天井高サッシにより、家の中でも景色が広がる大空間を実現する。自然光が住まい全体に広がることで、室内にいながら空や緑、四季を身近に感じられる屋内外一体の住空間を生み出している。

高い断熱性能を誇る同社独自の超高断熱アルミサッシの採用をはじめ、邸別に床・壁・天井に最適な断熱仕様を施すことで、吹抜け大空間・大開口を実現しながら断熱等級6を実現。「夏の暑さ」「冬の寒さ」に対応した快適な住環境を提供する。

林住業友「ikiki」

「コアLD」と「シェア空間」が多様な二世帯住宅を提案



愛着のある街に住み続けたい。共働きの子育ても、将来の安心もきちんと考えたい――こうした想いを形にするのが、住友林業の二世帯住宅「ikiki（イキキ）」。

同社は、ひと足先に二世帯住宅を実現したオーナーにアンケートを実施。イキキは、その声を元に、夫婦どちらの親との同居かなども考慮し、独立タイプの「2階建て」と「3階建て」、隣居タイプ「2棟建て」、「独立タイプ平屋」の4スタイルを提案している。

独立タイプは、上下階で世帯を分けることで、それぞれの暮らしを尊重しながら気楽に助け合い、ふれあうことができる提案。子世帯から親世帯へ直接行き来することができるように設計し、共通空間で親と孫の交流などをしやすくする。3階建てでは、都市を楽しむためのテラスやルーフバルコニーなども提案している。

隣居タイプの2棟建ては、心地よい距離感を保ち、隣に暮らす安心感と、将来の変化にも対応できるフレキシブルさが特長。建物中央にお互いの玄関を設け、左右で親世帯と子世帯を分ける。採光や眺めを同じように味わえるほか、孫などが走り回っても上下階の音を気にする必要がない。将来は賃貸に用途変更も容易だ。

独立タイプ平屋は、どの世代にもやさしい設計を実現する。将来の快適な生活を考えバリアフリーを徹底することも可能。車いすの利用を想定したり、手摺りの設置など、細やかな工夫で誰もが住みやすい家を生みだす。

全てのタイプに共通するのが「コアLD」と「シェア空間」。コアLDは、それぞれの世帯の生活の中心となるリビング・ダイニング。二世帯住宅だからといって常に食事や憩いの場を1つに集約せず、それぞれが落ち着いて過ごせる場所を設け、生活のリズムが異なる世帯が快適に過ごせるようにする。シェア空間は、2つの世帯が自然に顔を合わせることができるコミュニケーションの場所。テラスやバルコニーをはじめ共通のサロンなどを提案している。



体感すまいパークで、
叶えたいこと、お聞かせください。

船橋　柏　東浦和
越谷　朝霞　吉川美南

★ 体感すまいフェア
2026.10.1（木）
～11.30（月）

住まい価値創造企業
POLUS
ポラスグループ

ポラスの注文住宅

ポラス株式会社　埼玉県越谷市南越谷1-21-2　048-989-9151

お互いを尊重する多世帯住宅



旭化成ホームズ「フレックスアスガルド」

天井高に新バリエーション 外観は重厚な〝黒〟の存在感

旭化成ホームズの「FREX asgard（フレックス アスガルド）」は、都市における理想の暮らしを追求した、重量鉄骨・システムラーメン構造の3階建て住宅。名称のasgardは、北欧神話の神々が住まう城塞都市「アスガルド」に由来したもので暮らしを豊かにする叡智を結集した都市住宅を表現した造語。

新たに天井高バリエーションを追加。1・2階それぞれに空間の豊かさと暮らしやすさを両立した天井高2560㍉を選択することが可能となった。また、重量鉄骨の魅力の1つである大開口のバリエーションも強化。新開発した大開口サッシ「スライディングマリオン」は、サッシフレームをスリム化したことでガラス面が大きくなり、全閉状態でも開放感と高断熱の快適性を実現した。

マグマや溶岩が冷えて固まる際に収縮してできる割れ目「柱状節理」をモチーフにした、ランダム縦目地の外壁デザイン「ランダムバーチカル」を新たに導入。力強くシームレスな大壁面が建物を伸びやかに見せる。固く希少な鉱物であるレニウム鉱をモチーフにした外壁吹付色「レニウムブラック」は、従来からある「玄武」より明度が低く、より黒く見えるマットな質感の新外壁色だ。この2つを組み合わせることで、壮麗な縦のラインが邸宅に伸びやかな印象を与え、重厚な黒が力強い存在感を醸し出す。

さらに、新外装アイテム「ストラクチャースラブ」を仕様化、鉄骨梁をイメージした水平なデザイン要素を取り入れ、建物に広がりと安定感をもたらし、力強くおおらかなデザインが外観にアクセントを加えている。

ヘーベルハウスは全商品に耐久型断熱「ヘーベルシェルタードダブル断熱工法」を標準採用している。今回、その層構造は維持したまま外壁ヘーベルの内側に入れる断熱材「ネオマフォーム」の厚みを70㍉に増強。引違い系の全サッシも「ロングライフ次世代複合サッシ」に変更し、断熱等級6の標準仕様化を実現している。

知っておきたい地盤のこと

トラバースがWEBで分かりやすく解説

自分と大切な家族が住む場所を決める際に、「土地の価格」や「交通の利便性」などは優先順位の高い項目だ。ただ、近年の気候変動や活発化する地震に対して、その土地がどのような場所に位置しているのかを知ることは非常に重要になっている。

記憶に新しいところでは、6月に山梨県東部・富士五湖を震源とする震度6弱の地震や7月の熊本地震など、最近も相変わらず大きな地震が日本各地で多発している。また8月には豪雨により千葉県で大規模な水害が発生するなど雨の降り方も激甚化している。その観点でいうと「地盤の強さ」や「災害リスクの低さ」についても重要なポイントといえるだろう。

地盤に関する工事全般を専門に行うトラバース（千葉県市川市、久保田さく良社長）では、ホームページ上で「わかりやすい地盤のはなし」というコーナーを設け、ユーザーにもわかりやすく解説している。ここでは、その中から「地盤のはなし」についてその一部を抜粋して紹介しよう。

◇

地盤という言葉は良く聞きますが、建築物建設を行うときに用いる場合は、建築物が建つ地表面のことを指します。地盤が安定をしていなければ、地盤の上に建つ建築物に有害な影響が出てしまいます。よって、地盤の安定は重要な設計要素となります。

地盤は自然に形成されたものと人工的に形成されたものがある上に、形成された経歴によって大きな差があります。自然に形成された地盤においては、硬い地盤や軟弱な地盤があり、そのうえに人工的に手を加えられたりする人工地盤は、均一で良好である地盤は多くありません。利便性が高く、比較的に軟弱な地盤の多い平野部に人口が集中することで、昔では建築物建設に適さなかった湿地や水田、池などの場所を宅地化して利用されるケースが多いです。

建築物建設を行う場合は、そうした実情を踏まえて、地盤の状況を適切に調べる必要があります。また、地盤状況が軟弱である場合は、建築物に影響が及ばないような地盤対策を実施することが重要となります。

◇

ほかにも同コーナーでは、「液状化のはなし」、「擁壁・土留・塀のはなし」、「地盤を読むはなし」、「地盤調査のはなし」、「地盤改良のはなし」など、わかりやすく解説しているので、一度ご覧いただくことをお勧めしたい。



自然地盤地形図のイメージ

MISAWA

防災・減災住宅は、ミサワホーム。

ちょっとした揺れなのに、過剰に反応してしまう。豪雨のニュースに、家や家族が心配になる。

ミサワホームは、災害大国・日本のご家族に、ひとつ上の安全・安心をご提案します。

平常時から災害発生時、発生後まで3段階の防災・減災ソリューション「MISAWA-LCP」。

ふだん快適に暮らせる住まいが、そのとき、避難所としての役割を果たしてくれます。

1st SAFETY SOLUTIONS 備えるデザイン

2nd SAFETY SOLUTIONS 守るデザイン

3rd SAFETY SOLUTIONS 支えるデザイン

MISAWA-LCP

MISAWA Life Continuity Performance

備える▸守る▸支える［防災・減災ソリューション］



先進の防災・減災ソリューションを詳しくご紹介した「MISAWA-LCP」カタログを差し上げます。

HP ホームページ www.misawa.co.jp/catalog/

詳しくはWEBで　ミサワホーム　検索

※当社では、お客様の個人情報を、建築・リフォーム工事、不動産取引に関する情報・サービス案内のお届け、訪問、各種プランのご提案、アンケート調査等の実施目的で利用いたします。その他詳細は、www.misawa.co.jp/privacyをご覧ください。

新築事業 | ストック事業 | まちづくり事業 | 海外事業 | ウエルネス事業

MISAWA ミサワホーム